

東日本大震災 支援プログラム



宮城教育大学

みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト委員会

目次

<u>概要</u>	-----	1
<u>支援プログラム</u>		
※宮教塾	-----	2
※講座		
国語教育講座	-----	
社会科教育講座	-----	
数学教育講座	-----	
理科教育講座	-----	
音楽教育講座	-----	
美術教育講座	-----	
保健体育講座	-----	
家庭科教育講座	-----	
技術教育講座	-----	
英語教育講座	-----	
特別支援教育講座	-----	
幼児教育講座	-----	
学校教育講座	-----	
※附属センター		
環境教育実践研究センター	-----	
教育臨床研究センター	-----	
特別支援教育総合研究センター	-----	
国際理解教育研究センター	-----	
小学校英語教育研究センター	-----	
※サークル		
※ボランティア・グループ		
※他機関との連携支援事業	-----	
<u>支援物資一覧</u>		
※教師用お道具箱	-----	
※文房具類（ノート、鉛筆、筆箱等）	-----	
※ココロ発達療育センター「学習支援バック」	---	
※掃除用具一式	-----	
<u>企業・支援先一覧</u>	-----	
<u>プロジェクトメンバー</u>	-----	

概要

このたびの東日本大震災に際し、全国、更には世界各国から温かな励ましやご支援をいただきました。心から感謝申し上げます。

宮城県では、被害の大きかった学校を除く多くの学校が、4月21日に授業を開始しました。先生の中には、家を失ったために、避難所から通っておられる方も多く、避難所での世話、学校での児童、生徒の指導と、疲労は極地に達しています。子どもたちの心の傷が顕在化することも気がかりです。

本学でも入学式はできませんでしたが、5月9日より授業が開始されました。震災直後から、「みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト」を立ち上げ、被災学校の復興に向けて大学を挙げて努力しているところです。

今回、学内の教員や附属センターが支援できる・支援を行ってきたプログラムを公開し、被災校からの要請にできる限りお応えしたいと思っています。

なお、このプログラムは随時追加していきますので、ご要望もお寄せいただければ幸いです。

○宮城教育大学は、教育復興対策本部の中に、「みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト」をつくって、学校や幼稚園の支援をさせて戴いております。

○これらの支援は、宮城県震災復興基本方針、仙台市震災復興基本方針、その他、各地方自治体の基本方針に則って、大学が進めるものです。

○単科の大学ですので、ご要望に十分沿えるかどうか分かりませんが、できるだけのご支援をさせて戴きたいと思っておりますので、遠慮なくお申し出下さい。

問い合わせ先

研究・連携推進課 研究協力係

電話 022-214-3856

E-mail kenkyo@adm.miyakyo-u.ac.jp

支援プログラム

支援プログラム内容

宮城教育大学

事業名	宮教塾（案）
事業の種類	学力支援 教員補助 課外活動
日程	7月8月の土日開催
対象	中学生 1～3年 要望があれば高校生も可
事業詳細	各教科の指導単元を教育委員会と相談し決定の上、学生自ら指導案を作成し、授業を実施。 ただし高校生については、自習方式での指導
開催場所	栗原塾（平成20年度～実施） 大郷塾（昨年より要請あり） 【新規】気仙沼塾、南三陸塾、女川塾、石巻市塾、東松島塾、塩釜塾、七ヶ浜塾、多賀城塾、名取塾、岩沼市塾、亘理塾、山元塾
連絡先	教育委員会：生徒募集、会場の確保、開・閉校式 問い合わせ TEL 宮教大：学生募集、事前・事後指導、学生との連絡調整 問い合わせ TEL メールアドレス ホームページアドレス http://
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

センター名 国際理解教育研究センター

事業名	宮教塾（東京学芸大学と連携）
事業の種類	学力支援、課外活動
日程	7月25日～9月30日の間の土日を含む数日。7月下旬から8月中旬は学芸大学の学生、8月中旬～9月下旬は宮城教育大学の学生が連携して行う。
対象	小・中・高等学校
事業詳細	小中学校の学習支援 高校生の大学受験支援 小学校における遊び、課外活動の支援 中学高等学校における課外活動の支援
開催場所	教育委員会の指定する会場 または各学校
連絡先	附属国際理解教育研究センター Tel 022-214-3382 naka-k@staff.miyakyo-u.ac.jp
備考	

支援プログラム内容

社会科教育講座 教員名 小金澤孝昭

事業名	昔の体験「蒸し竈でご飯を炊こう」出前授業
事業の種類	出前授業
日 程	6月~11月の平日
対 象	小学校4年生
事業詳細	小学校4年生の社会科「昔の暮らしを学ぶ」単元の体験学習です。この体験学習では、昔のかまど「蒸し竈」を使って、ご飯を炊きます。まずは、蒸し竈で火おこしをします。木炭に火をつけて火をおこします。次いで「羽釜」でお米をといで、水加減を調整します。そして、羽釜を蒸し竈に入れてご飯を炊きます。ご飯を炊いている間に、石臼で大豆を挽いて黄な粉も作ります。秋には、このほかに稲の脱穀作業も足踏み脱穀機で行います。時間は2時間~3時間ほどのプログラムです。スタッフは5人程で伺います。特に学校で準備するものではありません。事前に1回、打ち合わせを行ないます。
開催場所	各小学校で開催
連絡先	小金澤研究室 電話 022-214-3386 FAX022-214-3386 t-koga@staff.miyakyo-u.ac.jp
備 考	仙台市内の小学校の場合は、環境局「もりもりレスキュー事業」に応募していただけると出前授業経費が出るので助かります。これ以外の地域やレスキュー事業の応募時期が過ぎても対応します。

支援プログラム内容

社会科教育講座 教員名 小金澤孝昭

事業名	夏のいぐねの学校 ・日帰りコース ・宿泊コース
事業の種類	課外体験学習
日 程	7月末 日帰り学校 8月初 宿泊学校
対 象	日帰りコースは、小学校3年生以上6年生まで 宿泊コースは、小学校5~6年
事業詳細	<p>●いぐねの学校(日帰り編)9:30~14:00(定員50名) いぐね(屋敷林)の探検・観察 ・食べ物作り体験(豆腐作り、竈でご飯炊き、石臼で黄な粉作り 持ちつき体験) ・ものづくり体験(萱織り、草木染め)</p> <p>●いぐねの学校(宿泊編)13:00~翌日14:00(定員20名) 1日目 午後・体験・観察学習 夕食づくり 交流会(留学生との交流) 2日目 午前 いぐね塾(夏休みの宿題・個別指導) 昼食後解散</p>
開催場所	名取市大曲 洞口家住宅(国の重要文化財)
連絡先	小金澤研究室 電話022-214-3386 FAX022-214-3386 t-koga@staff.miyakyo-u.ac.jp
備 考	保険に加入していただきます。 当日は名取駅まで迎えの車を出します。

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

教員名 高田淑子・笠井香代子・内山哲治

事業名	スペースラボ in 仙台市天文台 for East Japan
事業の種類	スペースラボ in 仙台市天文台の出張理科実験教室の開催
日程	年1回～2回 1日
対象	小学校・高学年 中学生
事業詳細	<p>理科の実験教室「スペースラボ」を仙台市天文台と共同事業として実施しています。</p> <p>沿岸部の学校や、公民館での実施も可能です。</p> <p>夏休みの理科の自由研究のヒントにどうぞ。</p> <p>実施内容例)</p> <p>『太陽の通り道をたどろう！スペシャル』</p> <p>『宇宙空間を体験しよう』</p> <p>『はやぶさ』はなぜ燃え尽きたか？』</p> <p>『オーロラと超伝導の共通点?!』</p> <p>参考 ホームページ</p> <p>http://rika.miyakyo-u.ac.jp/information/spacelab.html</p>
開催場所	仙台市天文台、要請のあった学校、公民館など
連絡先	Tel 022-214-3415 E-mail toshiko@staff.miyakyo-u.ac.jp
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

講座・センター名 音楽教育講座

事業名	音で遊ぼう・音楽と親しもう
事業の種類	学習支援 授業補助 課外活動
日程	休暇期間、土日を中心に随時
対象	小学生 1～6 年、中学生 1 年～3 年 要望があれば高校生も可
事業詳細	<p>a. 音遊びのワークショップ ボディパーカッション、簡易楽器による即興的な音楽作り、口唱歌遊びなど。</p> <p>b. 合唱、吹奏楽のクリニック 授業や部活動に参加し、一緒に演奏したり、アドバイスをしたりする。</p> <p>c. 日本音楽（三味線、箏）に関する授業補助</p> <p>d. ミニ・コンサート</p> <p>以上 a～d は、それぞれ単独でも、あるいはいくつかの組み合わせでも応じることが可能です。ご相談ください。</p>
開催場所	ご相談に応じます。
連絡先	宮城教育大学音楽教育講座主任教授 吉川和夫 k-kikka@staff.miyakyo-u.ac.jp FAX. 022-214-3443
備考	音楽教育講座の教員全員と学生が、内容に応じてチームを組んで対応します。

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

講座・センター名 技術教育講座

事業名	中学校における技術科教育支援
事業の種類	中学校における技術科の授業実施に関する支援
日程	随時相談
対象	中学校の技術科教員
事業詳細	<ul style="list-style-type: none">・震災により使えなくなっている技術科の授業で必要のある工具や器具の貸与・震災により施設が十分に使えない状況での授業実践の方法に関する相談
開催場所	<ul style="list-style-type: none">・対象中学校
連絡先	水谷好成（技術教育講座） E-mail: mizu@staff.miyakyo-u.ac.jp TEL/FAX: 022-214-3468 ※できる限り、メールを活用してください。
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

教員名 水谷 好成 (代表)

事業名	ものづくり元気支援プロジェクト
事業の種類	ものづくり工作に関するワークショップ・授業に関する支援
日程	随時相談
対象	小・中学校、地域の子ども会など
事業詳細	<ul style="list-style-type: none">・LEDによる光のインテリア工作教室（授業）の実施 牛乳パックランタン、漫画ランタン作りなど・ロボットを使ったプログラム学習の実施 梵天丸を使った学習・簡易音声録音・再生装置による工作・その他、ものづくり教室や授業などに関する相談
開催場所	対象小・中学校など（相談）
連絡先	水谷好成 E-mail: mizu@staff.miyakyo-u.ac.jp TEL/FAX: 022-214-3468 ※できる限りメール連絡でお願いします。
備考	<ul style="list-style-type: none">・工作教室における材料費に関しては相談に応じます・

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

教員名 安藤明伸

事業名	最新技術で未来の街をつくってみよう
事業の種類	課外活動
日程	随時調整
対象	中学生1～3年
事業詳細	<ul style="list-style-type: none">● 拡張現実（AR）という、現実空間にあたかも物体があるかのように見ることができる技術を利用し、自分で作成したコンピュータグラフィックスを「その場」の空間に映し、未来のテクノロジーを体験できます。● 2～3時間の内容です。● 必要な物品（ノートパソコンも含む）は、こちらで用意することも可能です。● パソコン台数の関係上、同時に作業できるのは10名です（パソコンをご用意して頂ける場合は、人数は応相談）
開催場所	ノートパソコンの電源が確保できれば、どこでも可
連絡先	技術教育講座 安藤明伸 (andy@staff.miyakyo-u.ac.jp) ※電話はありません
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

教員名 安藤明伸

事業名	パソコン組み立て講座
事業の種類	課外活動
日程	随時調整
対象	中学生1～3年
事業詳細	<ul style="list-style-type: none">● 普段使っているながら、中身をあまり知らないコンピュータを分解・組み立てしながら、そこに隠されたテクノロジーの秘密やものづくりのエッセンスを知ることができます。● 2～3時間の内容です。● 必要な物品は、こちらで用意します。● パソコン台数の関係上、同時に作業できるのは10名です
開催場所	電源が確保できれば、どこでも可
連絡先	技術教育講座 安藤明伸 (andy@staff.miyakyo-u.ac.jp) ※電話はありません
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

教員名 安藤明伸

事業名	技術科 情報分野 授業提供&学習支援
事業の種類	授業の提供, 教員補助
日程	随時調整
対象	中学生1~3年
事業詳細	<ul style="list-style-type: none">● 中学校技術科の情報の授業では, 多くの場合生徒のスキル差による進度調整が大変困難です。このプログラムでは, 本学学生や教員による授業の補助をいたします。またご希望があれば, こちらで単発の授業をご提供します。● 授業補助および授業提供に当たっては, 予め内容等の調整の上, 実施致します。
開催場所	日程調整ができればどこでも可
連絡先	技術教育講座 安藤明伸 (andy@staff.miyakyo-u.ac.jp) ※電話はありません
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

教員名 岡 正明

事業名	津波により海水を被った学校花壇・菜園の復旧支援
事業の種類	学校支援 教員補助
日程	要望がありましたら、随時。
対象	市内・県内の小中学校
事業詳細	<p>津波により海水を被った学校花壇や菜園では、本年度の教材植物栽培がうまく育たない、また来年度以降の栽培活動の見通しが立たない、などの場所も少なくないと思います。花壇などの塩分濃度を測定し、対処法に関する情報を提供いたします。</p> <p>○学校花壇の土壌について、ECメーターで塩分濃度を簡易測定します。(深さ毎の土壌を調べ、どの程度の深さまで塩分が染み込んでいるのかも調べます。)</p> <p>○塩分を含んだ土壌を復旧させる方法に関する情報や、代表的な植物の耐塩性データを提供するとともに、具体的な手法についてのアドバイスをいたします。</p> <p>○可能な測定項目は、塩分濃度のみです。</p>
開催場所	近隣の学校には、直接うかがって調査いたします。遠方の学校については、深さ毎の土壌を送っていただくなど、状況にあわせて対応いたします。
連絡先	宮城教育大学 技術教育講座 岡研究室 TEL：022-214-3473 Email： maoka@staff.miyakyo-u.ac.jp (できるだけ、Emailでのご連絡をお願いいたします。)
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

講座・センター名 学校教育講座

事業名	学校・教員・保護者へのコンサルテーション
事業の種類	学校運営 被災児童生徒対応および育児に関する コンサルテーション
日程	随時
対象	保育所・幼稚園，小学校，中学校，高等学校の教諭等 および保護者
事業詳細	震災により被災した学校の運営や、児童生徒への対応 についてお悩みの先生方・保護者の方々からのご相談を 受けつけます。 心理学および教育学を専門とする教員が対応します。
開催場所	各学校園，または宮教大にて ※まずは郵便，電話，メール等でご相談ください。
連絡先	学校教育講座 久保順也 電話・FAX 022-214-3525 e-mail kubo@staff.miyakyo-u.ac.jp
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

講座・センター名 学校教育講座

事業名	震災に関するアンケート調査等の支援
事業の種類	データ入力・分析等の支援，調査実施に関する相談等
日程	随時
対象	保育所・幼稚園，小学校，中学校，高等学校の教諭等
事業詳細	<p>震災に関するアンケート調査等を実施された（あるいは実施される予定の）学校園の先生方を対象として，次のような支援を行います。</p> <ul style="list-style-type: none">①学生ボランティアによるデータ入力の支援②調査結果の分析や報告書作成等に関する支援・助言③質問紙作成などの調査実施に関する相談
開催場所	各学校園，または宮教大にて ※まずは郵便，電話，メール等でご相談ください。
連絡先	学校教育講座 越中康治 電話・FAX 022-214-3519 e-mail etchu@staff.miyakyo-u.ac.jp
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

講座・センター名 学校教育講座

事業名	記録：教師が生きた3・11
事業の種類	教員支援 危機管理 学級・学校経営
日程	随時
対象	幼・小・中・高など学校の教職員
事業詳細	<p>震災直後からその後の期間にわたって、教師たちが学校内外においてどのような行動や働きをしてきたのか、本学非常勤講師およびその紹介者を中心とする教職員に対してヒアリングを行い、記録をまとめます。</p> <p>今後の危機管理や学級・学校経営に活用できるものであるとともに、教員の社会的役割に関する基礎資料となることをめざします。</p>
開催場所	本学、またはヒアリング対象者の勤務校
連絡先	学校教育講座 梨本雄太郎 電話・FAX 022-214-3715 e-mail y-nashi@staff.miyakyo-u.ac.jp
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

センター名 国際理解教育研究センター

事業名	被災地に国際社会のメッセージを届ける事業
事業の種類	学力支援、メンタルケア
日程	5月以降随時（単発）
対象	幼稚園 小・中・高等学校
事業詳細	授業の流れ 各国留学生が被災地の学校に国際社会のメッセージ（絵や写真、手紙）を届けます。英語活動も行います。（単発の事業） ・留学生が各国の言語や文化の紹介。 ・世界各国の遊びを体験する。 ・各国からの支援メッセージをとどける。 ・お礼のメッセージを書く。
開催場所	各学校
連絡先	附属国際理解教育研究センター Tel 022-214-3382 naka-k@staff.miyakyo-u.ac.jp
備考	

別紙 「支援プログラム」

支援プログラム内容

センター名 国際理解教育研究センター

事業名	震災・復興プロセスの検証・研究（防災教育）
事業の種類	調査・研究
日程	通年
対象	幼稚園・小・中・高等学校、教育委員会教員
事業詳細	①震災発生時から現在までの経緯を、すべて記録に残す。 ②これまで学校展開していた防災教育がどう生かされたのか検証。 ③震災から得られた教訓を教育に反映させる。 ④研究の成果を国際社会に発信し、ユネスコの推進するDRR (Disaster Risk Reduction)に協力する。
開催場所	各学校、各教育委員会
連絡先	附属国際理解教育研究センター Tel 022-214-3382 naka-k@staff.miyakyo-u.ac.jp
備考	

支援物資

★小学生・中学生用文房具類（ノート、鉛筆、筆箱等・新品多数）



支援物資

★ココロ発達療育センター「学習支援バック」

- ※ビーズ
- ※シール
- ※シール貼り用教材
- ※迷路と線つなぎの練習帳
- ※ペン
- ※自由帳



支 援 物 資

※掃除用具一式

支 援 物 資

※ドリル（幼児・小学生対象）

みやぎ・仙台未来づくりプロジェクト メンバー

	委員名	所 属
委員長	見上 一幸	総務担当理事
委員	阿部 芳吉	連携担当理事
//	鶴川 義弘	環境教育実践研究センター長
//	千葉 芳明	教育臨床研究センター長
//	関口 博久	特別支援教育総合研究センター長
//	藤田 博	国際理解教育研究センター長
//	板垣 信哉	小学校英語教育研究センター長
//	小金澤孝昭	ESD・RCE 推進委員
//	遠藤 仁	//
//	島野 智之	//
//	市瀬 智紀	//
//	吉田 剛	//
//	齊藤千映美	//
//	菅原 敏	//
事務	芳賀 茂	研究・連携推進課長
//	佐藤 剛	研究・連携推進副課長
//	板垣 毅	学生課長
//	松本 昭夫	学生副課長